

# 水田たより 1月号

令和5年1月5日

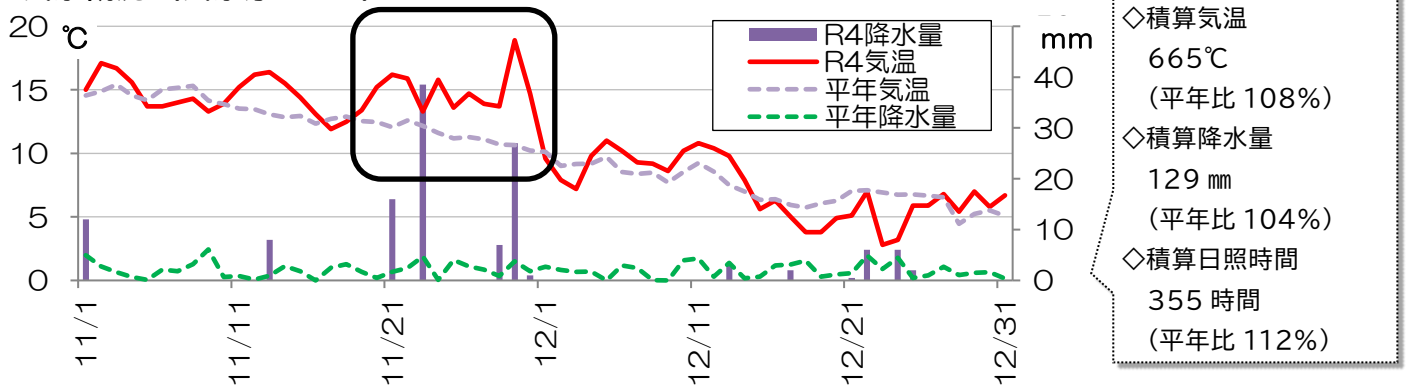
JA みえきた

桑名地域農業改良普及センター

## 気象概要と麦類の生育状況

桑名管内では、11月下旬の平均気温が平年値(2013年～2021年)より4℃ほど高く推移しました。これにより、11月上旬に播種した「あやひかり」では草丈がやや大きくなっており、葉先が黄色くなる等の肥切れ症状が見られるほ場もありました。同様に「ファイバースノウ」でも葉色がやや薄く、肥切れが懸念されます。「さとのそら」では概ね順調な生育でした。

### 気象概況 (気象庁データ)



### 現在の生育状況 (11月上旬播種の生育基準田、1月4日調査)

地域	品種	播種日	直近5カ年との比較			
			茎数	草丈	葉齢	葉色
桑名・木曾岬	小麦「さとのそら」	11/10	少	同程度	やや遅(5葉)	やや薄
いなべ・東員	小麦「あやひかり」	11/4	やや少	やや大	同程度(5葉)	やや薄
	大麦「ファイバースノウ」	11/4	やや少	やや少	やや遅(4.5葉)	やや薄

## 麦類の施肥管理

本年は積算気温が高く、肥料の溶出が進んでいると考えられます。特に「11月上旬までに播種」「年内に5葉期を迎えた」「葉色が薄い、葉先が黄色い」に当てはまる際は「つなぎ肥」を積極的に施用しましょう。

### ■基肥に緩効性肥料(麦エムコート 35)を施用した場合[麦 PRO3256(小麦)の場合は、3月追肥で対応]

種類	時期	窒素目安量	施用量(14-8-8の場合)
小麦	1月上旬～2月中旬	2～2.5kg/10a	15～20kg/10a
大麦	1月上旬～1月下旬	2～2.5kg/10a	15～20kg/10a

大麦は硝子粒が課題となっており、基肥に緩効性肥料を施用した場合は、2月以降に追肥を行うと硝子粒が増えやすくなります。必ず1月末までに追肥を完了させましょう。

### ■分施の場合

種類	時期	窒素目安量	施用量(14-8-8の場合)
小麦・大麦	1月上旬～1月中旬	1.5～2kg/10a	10～15kg/10a

本年は幼穂形成が早くなる可能性があります。幼穂形成期(6葉期前後)を迎えたら1回目の穂肥を行いましょう。

## 令和4年産大豆の作柄

令和4年産の大豆は、7月上中旬の長雨の影響により播種作業が遅れ、苗立ちの悪いほ場が見られました。また、大豆によるほ場の被覆が不十分であったり、大雨等で初期剤が流れたこと等により、雑草が多く発生しているほ場も散見されました。

本年は例年よりカメムシの発生が多かったものの、多くの生産者により適期防除が行われ、被害は最小限に抑えられました。なお、例年より多く確認された青立ちは、カメムシによる食害以外の要因でも発生します。

### ■青立ちについて

収穫時には、**青立ち**が県内各地で多く確認されました。青立ちとは、成熟期を過ぎてても、葉が落ちず、青みが残っている状態のことで、**汚損粒が発生**し品質の低下につながります。青立ちが発生する原因は、葉が多い・莢が少ない・食害による莢生育不良など、莢と莖葉のバランスが悪く、養分の莢への転流がうまく行えないことによります。



青立ちしている大豆の株

青立ちの原因と対策については、以下のとおりです。

原因	対策
湿害による生育不良	排水対策（明渠の設置、中耕・培土）
<b>カメムシ</b> などによる食害	カメムシ防除を <b>適期に複数回</b> 行う
早播きによる栄養成長過多	摘心による蔓化防止
開花期以降の干ばつなどによる着莢不良	畝間灌水（地域により水利に注意）

## GAPの実践について（GAPチェックシートの活用）

### ■GAP(農業生産工程管理)とは？

GAPは農業を持続するための基礎を固め、農業経営の効率化を図る手法です。

農業を維持するための基礎

- ①食品安全の確保
- ②労働安全の確保
- ③環境保全の確保
- ④適切な労務管理
- ⑤信頼される農業運営

### ■GAPの実践とメリット

栽培から収穫、農産物の取扱いまでの全生産工程について、**各農場が実状に合わせてルールを作り、実行、評価・分析、改善を繰り返す**ことを**GAPの実践**といいます。

役割やルールを明確にできるため、経営の中で**責任感や自主性の向上**、**意思疎通の改善**、生産・販売計画の立てやすさやコストの削減に繋がります。

一方、**GAPの認証**は、GAPの実践を対外的に見える化するものです。費用もかかるため、バイヤーとの取引などで活用の見込みがある場合は取得をご検討ください。

### ■GAPチェックシート

GAPチェックシートは、GAPの実践をサポートするため県研究所で考案されました。GAPにどのような項目があるか？自分の農場ではどのくらい工程管理ができているか？不足している取り組みはどこか？など、GAPチェックシートで簡易に確認ができます！

毎年1～2回チェックし、見直し・実行・検証を繰り返すことで農業経営の効率化が見込めます。データは蓄積されるため、過去の数値や県平均値との比較も可能です。

**まずは一度ご活用を！** 詳しい説明は普及員がいたしますのでお声がけください。